

中学校授業における開発DVD教材 「郷土の伝統文化」の効果性の研究(1)

池野 範男 小原 友行 棚橋 健治 升原 一昭
阿部 哲久 若杉 厚至 宮本 英征 井上 奈穂
(研究協力者: 宇都宮明子 李 貞姫 田口 絃子 大國沙輝子)

1. はじめに

本研究は、広島市教育委員会、広島市立中学校、広島大学附属東雲中学校、広島大学附属中学校と広島大学教育学研究科が連携して行うものである。それは、平成19年度文部科学省伝統文化教材開発事業において開発したDVD教材の学習効果を実証・検証するため、社会科、選択社会、あるいは、総合的な学習の時間において、開発DVD教材を使った授業を行い、子どもたちの学習反応をまとめ、その結果にもとづいて、教材の効果を判定しようとするものである。

本年度は、開発されたDVD教材の学習効果を実証・検証するため、広島大学附属東雲中学校、附属中学校、広島市立井口中学校において、DVD教材を使った研究授業を行った。本稿では、このうち、附属東雲中学校における社会科研究授業を取り上げ、子どもたちの学習反応をまとめ、その結果にもとづいて教材の教育効果、学習効果を判定する。

そのため、次のような手順をとった。

- ・DVD教材を使用した授業の学習指導案と評価計画を立案する。
- ・授業までに、プリテストを実施し、子どもたちの事前の伝統文化に関する知識・理解、興味・関心、意欲・態度を調査する。
- ・研究授業を実施する。
- ・授業後に、ポストテストを実施し、子どもたちの事後の伝統文化に関する知識・理解、興味・関心、意欲・態度を調査する。
- ・授業の前後において、知識・理解、興味・関心、意欲・態度などの変容をプリテストとポストテストの比較により数量的に分析する。
- ・プリテストとポストテストの個人別比較により、

伝統文化に対する認識の変容を質的に分析する。

- ・授業に関する学習評価と教育評価から、教育・学習効果に関する数量的質的考察を行う。
- ・教育・学習効果の結果をまとめ、DVD教材の有効性を検証する。

2 研究授業の計画と実施内容

(1) 研究授業の内容と構成

本研究授業では、社会科歴史的分野の授業においてDVD教材全編をそのまま使い、歴史学習の導入として利用活用する場合を研究することにした。これは、中学校社会科歴史的分野の新学習指導要領(平成20年3月告示)「(1) 歴史のとらえ方」における、地域に「受け継がれてきた伝統や文化」への導入教材として本DVD教材を利用活用し、地域の歴史を詳しく調べるようにすすめる場合を想定し、そのような授業を構想した。

本DVD教材は、利用活用の次のような仮説を立て、開発を進めた。

- ① 郷土の伝統文化の教材を提供すれば、生徒に、伝統文化の知識や理解を形成することができる。
- ② 郷土の伝統文化の教材を提供すれば、生徒に、伝統文化の意義を考える機会を与え、その意義を考察することができる。
- ③ 郷土の伝統文化の教材に伝承している姿を入れ、それを提供すると、生徒に、伝統文化への興味・関心を育てることができる。
- ④ 郷土の伝統文化の教材において伝承とともにその意義に触れると、生徒は伝統文化に深く関わろうとする態度を育てることができる。

この仮説を実証・検討する研究授業を立案、実施、

Norio Ikeno, Tomoyuki Kobara, Kenji Tanahashi, Kazuaki Masuhara, Tetsuhisa Abe, Atsushi Wakasugi, Hidemasa Miyamoto, Naho Inoue, Akiko Utsunomiya, Jung-Hi Lee, Hiroko Taguchi, Sakiko Oguni.

A Study on the Effectiveness of DVD Teaching Material "Tradition and Culture in our Home, Hiroshima" in Teaching and Learning Social Studies on the Junior Highschool [1].

評価することにした。

(2) 研究授業の概要と教育効果の仮説

広島大学附属東雲中学校における研究授業は、社会科学歴史的分野の授業を計画し、DVD教材を使った郷土の歴史に関する導入学習（1時間）として行った。学習成果としては、次のものを期待した。

- A 生徒に、郷土の伝統文化に関する知識・理解を増進させることができる。
- B 生徒に、郷土の伝統文化の歴史的意義と現代的意義を考えさせることができる。
- C 生徒に郷土の伝統文化への興味・関心を与え、伝統文化を自ら調べたり考えたりすることができるようになる。
- D 生徒が、郷土の伝統文化に取り組もうとする態度を形成することができる。
- E 生徒が、我が国の伝統文化を他国や他地域の伝統文化と比較し、その意義を考えることができる。
- F 生徒が、郷土、我が国、世界の歴史に興味・関心を広げることができる。

研究授業は、平成20年4月17日（木）に、中学校1年2クラスで実施し、指導者は、若杉厚至教諭であった。2クラスで行い、その前後に阿部哲久教諭の協力の下、プリテスト、ポストテストを行なった。

(3) 学習指導案

実施した研究授業の指導案は添付資料1（216頁以下、参照）の通りである。

(4) 評価計画、プリテストとポストテスト

研究授業の評価計画は、プリテスト、ポストテストによって授業による生徒の認識の変容や認識レベルの成長を評価するように設定した。プリテストは授業の2日前に行った。ポストテストは授業の最後に配布、回収した。紙幅の都合上、両テストをここで示すことができない。構成に関して簡潔に述べておく。

プリテストは、生徒が既に持っている知識・理解、興味・関心、意欲・態度などを把握することを目的とした。第1問では、伝統文化に関する知識・理解、興味・関心、意欲・態度などを4段階の尺度で自己評価させ、その度合いを調査した。第2問では、広島市の伝統文化に関する個別的な事例を挙げてその類型化をさせた。事前の生徒の認識では、事例は挙げて、種類別の類型化はむずかしいと予想していた。第3問では、伝統文化の定義を書かせ、その認識レベルを把握することにした。

ポストテストは、授業を通じた認識レベルの成長、新たな知識・理解、興味・関心、意欲・態度の形成・変容を把握することを目的とした。第1問は、授業に関する子どもたちの評価をたずねた。(1)授業の評価、

(2) DVD教材内容の理解、(3) DVD教材を使った授業内容の評価、(4) DVD教材を使った授業への期待、(5) 興味・関心の場面の指摘を行わせた。第2問では、(1) 広島市の歴史への興味喚起、(2) 伝統文化の既有知識の確認、(3) 新知識の指摘、(4) 興味・関心の高まりを調べ、(5) 伝統文化の定義を書かせ、伝統文化の認識変容を把握しようとした。第3問では、調査や体験への参加意欲を調査し、DVD教材がもたらした効果を測ろうとした。第4問では、授業の感想を書かせ、研究授業の率直な感想を出させるように配慮するとともに、選択肢問題による立場選択だけでなく、自由記述を取り入れることで、生徒の考えを意見として表明できるようにも心がけた。

3 学習効果に関する実証分析

研究授業は2クラスで実施したが、クラス間の差異はあまりみられず、一括して分析した方が実態をより把握できると考え、2クラスを個別に分析せず、2クラスをまとめ全体で分析することとした。

(1) 数量的分析

ア 伝統文化に関する事前認識

伝統文化についてどのような認識を持っているかをDVD視聴前に実施した。その集計が表1である。

表1 事前の伝統文化認識

第1問 項目	①		②		③		④		合計
	数	%	数	%	数	%	数	%	
(1)興味・関心	15	19.0	43	54.4	17	21.5	4	5.1	79
(2)知識・理解	1	1.3	34	43.0	39	49.4	5	6.3	79
(3)調査経験	15	19.0	33	41.8	27	34.2	4	5.1	79
(4)調査意欲	23	29.1	41	51.9	13	16.5	2	2.5	79
(5)参加経験	13	16.5	19	24.1	37	46.8	10	12.7	79
(6)参加意欲	26	32.9	40	50.6	11	13.9	2	2.5	79

選択肢①～④を設定した。①②が肯定的、③④が否定的な評価である。肯定・否定のいずれかを選択するようにしてある。また、①にいくほど、各項目に対する積極的な評価をしていることになる。

伝統文化に関して、興味・関心、調査経験、調査意欲、参加意欲のいずれも、過半数のものが肯定的評価を、特に興味・関心、調査意欲や参加意欲では高い評価を示した。それに対し、知識・理解、参加体験では、過半数が否定的な評価を下し、比較的低い数値となっている。伝統文化に対し、関心が高く参加したいと思っているが、何が伝統文化で、どのように参加してよいか分からないといった生徒の現状認識が読み取れる。

イ 伝統文化の事前知識・理解

プリテストの段階では、伝統文化をどのようなもの

と考えているのかをみていく。種類分けができていない生徒はほとんどおらず、事例のみを記述している生徒が大半であったので、種類は分析者の方で作成した。その結果が、表2である。

表2 授業前の伝統文化の種類と事例

種類	事例	計
祭 礼	祭り, おみこし, こいのぼり, とんど祭り, ひな祭り, 博多どんたく, とうろう流し, よさこい祭り, 酒祭り, いのこ祭り, とうかさ, フラワーフェスティバル	51
伝統芸能	神楽, 琴	20
工 芸 品	熊野筆, かつら, 備後かすり, しゃもじ, 仏壇	31
祝 祭 日	七五三, お正月, たなばた, 節分, 平和記念式	9
遺 跡	巖島神社, 三ッ城古墳	2
舞 踊	盆おどり, あわおどり	11
料 理	もみじまんじゅう, お好み焼き, かき, 餅つき	14

事例をみると、多くの生徒は祭りや伝統芸能、工芸品をあげており、伝統文化の多くが、実際に参加したり、学校で学習したり見学に行ったりするなどの実体験に基づくものとなっていることが分かる。また、広島市を想定した質問であったが、広島以外のものをいくつか挙げており、必ずしも豊富とは言えない。

ウ DVD教材により獲得した伝統文化の種類と事例
イで示した伝統文化の種類と事例がDVD視聴によりどのように変容したのかを示したのが表3である。

表3 授業後の伝統文化の種類と事例

種類	事例	計
伝統芸能	能楽, 茶道, 神楽	69
遺 跡	産業奨励館, 縮景園	10
工 芸 品	金仏壇, 竹細工, 紙	5
歴 史	西国街道, 川舟, 雁木, 歴史全般	22

この結果から伺うことができることは、次のような点である。プリテストでは、伝統文化は祭りを事例として挙げる生徒が多かったが、ポストテストではDVDで伝統文化として取り上げられていた伝統芸能に強い関心を抱いたことが分かる。また、伝統文化ではないが、広島の歴史にも強い関心を抱き、DVDから文化だけでなく、広島という地域性にも着目し、地域と伝統文化のつながりに気づいていることが伺える。

エ 伝統文化の事後認識

自らの体験というレベルで伝統文化を認識している

生徒が研究授業においてDVD視聴を経て、どのように変容したのかを、ポストテストの結果にもとづき、分析する。DVD教材に対し、生徒がどのように評価したかについての回答をまとめたのが表4である。

この表の(2), (3)の結果が示すように、DVD教材に関する内容とその授業内容の評価は極めて高い肯定的な評価を与えている。また、(1)授業評価, (4)DVDによる授業への期待も高い数値を示している。DVD教材による研究授業に対し、非常に高い肯定的な評価を示したことが分かる。視聴覚教材に慣れている生徒にとっては、講義のみの授業よりも、視覚・聴覚に訴えるDVD教材を利用した授業は効果が高いことを伺うことができる。

表4 授業後の授業評価

第1問 評価事項	①		②		③		④		計
	数	%	数	%	数	%	数	%	
(1) 授業評価	32	41	44	56.4	1	1.3	1	1.3	78
(2) DVD教材 内容評価	51	65.4	27	34.6	0	0	0	0	78
(3) DVDによる 授業内容評価	46	59	31	39.7	1	1.3	0	0	78
(4) DVDによる 授業への期待	25	32.1	49	62.8	4	5.1	0	0	78

オ 伝統文化に関する事後評価

研究授業の結果、伝統文化に対する生徒の評価がどうなったかについて、事後のポストテストの第2問と第3問の回答をまとめたのが表5である。

表5 伝統文化への事後評価

第2問, 第3問項目	①		②		③		④		合計
	数	%	数	%	数	%	数	%	
2 (1) 興味・関心	32	42.1	43	56.6	0	0.0	1	1.3	76
(2) 知識・理解	31	41.3	43	57.3	1	1.3	0	0.0	75
3 (1) 調 査	21	27.6	54	71.1	1	1.3	0	0.0	76
(2) 参加意欲	25	32.9	44	57.9	6	7.9	1	1.3	76

表1と比較すると、どの項目においても、①②を合わせると90%以上となり、飛躍的に肯定的な評価が増大していることが分かる。DVD教材は授業方法としてだけでなく、伝統文化に関する内容においても非常に効果的であったことが明らかである。

カ DVD教材による伝統文化授業への肯定的評価要因

次に、なぜ生徒が研究授業によりそれほど伝統文化に対する評価を高めたのかを、DVD教材において生徒が興味・関心を示したと指摘した場面から考察する。その回答を整理したものが表6である。

表6 DVD教材における興味・関心場面

	場 面	計
広島 の 地 域 性	広島歴史	20
	広島の地形	8
	太田川とのつながり	10
	広島城	2
	縮景園	1
	昔と今の町並みの比較	3
	産業奨励館	41
伝 統 文 化	文化全般	9
	茶道	15
	能楽	2
	神楽	20

生徒が興味を示した場面は、広島地域性と伝統文化という2つに大別できよう。さらに、生徒がDVD教材により獲得した知識として挙げているのは、産業奨励館、茶道、神楽といった個別的な事柄である。このことから、2つの特徴を指摘することができる。第1の特徴として、プリテストでもそうであったように、生徒は伝統文化をこうした具体的な事柄として捉える傾向が高いことが分かる。もともと持っていた知識に対し、DVD教材によりさらにその知識を豊富にする情報を与えられたことで各項目の評価が高くなったといえよう。もう1つの特徴は、広島と太田川の間や、城下町の発展など広島歴史に対しても高い関心を示しているということである。DVD教材を用いた研究授業によって、生徒は、伝統文化とは地域に根ざしたものであるという新たな認識を獲得し、伝統文化を身近なものとして受け止め、自ら関わろうとする意欲を高めたといえよう。

キ 数量的分析結果の考察

以上の数量的な分析結果から、開発されたDVD教材は伝統文化に関する生徒の知識・理解、興味・関心、意欲・態度などを深める効果的な教材であることが明らかとなった。もともと生徒は、伝統文化を具体的な事柄と捉えており、DVD教材はそうした具体的な事柄を視覚や聴覚に訴え、明確に生徒に提示し、生徒の知的好奇心を満たすものとなっているため、こうした効果が生じたといえよう。生徒の授業に対する感想でも、「DVDを見て、以前に比べて広島歴史や文化のことを知ることができて良かった」「分からなかったことが分かってスッキリした」といった記述に見られるように、知らなかったことが分かってよかったという記述が多くみられたこともそれを実証している。

(2) 質的分析

ア 伝統文化の認識レベルの変容

伝統文化に対する生徒個人個人の認識がどのように変

容したかを認識レベルにおいて把握することを試みる。そこで、質的に分析するために、伝統文化について記述させた内容を達成度として分析した。達成度の調査は次のような手順で行なった。

- ① 生徒の記述を、認識レベルの段階Ⅰ～Ⅳのいずれかに分類する。
- ② 各段階において、プリテストとポストテストではどの程度変容が生じたか、まずは全体の集計をもとに、次に個別の生徒の記述をもとに分析する。

以上の手順をもとに、作成したのが表7である。

表7 伝統文化の認識レベル

段 階	認識レベル の記述例	プリ		ポスト	
		数	%	数	%
Ⅰ 感覚的な認識のみを示した段階	その地域に伝わる祭りのようなもの。広島には伝統がないのでは。	2	2.8	0	0.0
Ⅱ 事実を踏まえて認識する段階	伝統文化とは祭礼や神楽などである	1	1.4	3	4.2
Ⅲ 一般化して認識する段階	伝統文化とは現在まで続いている文化である	67	93.1	53	73.6
Ⅳ 価値観に照らして認識する段階	伝統文化とは後に伝え、大切にしていなくてはいけない	2	2.8	15	20.8

全体的な分析から、プリテストでは、伝統文化とは何かという問いに対して、多くの生徒が伝統文化とは現在まで続いている文化であると一般化して認識している。

前述のように生徒は、伝統文化を個別的な事柄と捉えているが、伝統文化の概念を記述する際にはそれらの事柄が昔から今まで続いているものとして、一般化していることが分かる。ポストテストを見ても、そうした一般化で認識している生徒が多く、DVD教材はこの生徒の認識を覆す内容ではなかったことが読み取れる。またポストテストでは、伝統文化は継承しなくてはならない、後に伝えなくてはならないといった、生徒個人個人が主体的に判断した結果、価値を含んだ認識に至った生徒がDVD視聴により増加していることが分かる。伝統文化は地域に根ざしたものであるといった生徒が獲得した認識や、DVDの中のインタビューに対する中高生の発言がこうした認識を増加させたといえよう。

イ 個々の生徒の認識変容事例

全体的な分析では、生徒の認識はそれほど変容しな

かったようにみえたが、本当にそうであるか、認識に質的な変容はみられなかったのかを、個別の生徒の記述をもとに考察する。事前のプリテスト段階と、事後のポストテスト段階との認識レベルにおける変容をタイプ別に整理したのが表8である。

表8 認識レベルの変容

認識段落の変容	計	
	数	%
無回答→Ⅲ	4	5.6
無回答→Ⅳ	1	1.4
I→Ⅱ	1	1.4
I→Ⅳ	1	1.4
Ⅱ→Ⅱ	1	1.4
Ⅲ→Ⅲ	49	69.0
Ⅲ→Ⅳ	12	16.9
Ⅳ→Ⅳ	2	2.8

プリテストでもポストテストでも、Ⅲの段階の生徒が多いことは全体的な分析より明らかである。Ⅲ段階に留まった生徒の記述を比較してみると、プリテストでは、昔から受け継がれている習慣や行事といった具体的な内容で伝統文化を捉える生徒が多い。それがポストテストになると、「地域に根ざした誇り」、「今でも役立つ」、「意味や気持ちが込められている」、「奥が深い」といった表現が付け加えられ、具体事例というよりは、「誇り」や「役立つ」に見られるように価値も込められ、文化全般の認識が拡大していることが分かる。DVDの視聴により、文化は多岐にわたるものであると認識し、一般化のレベルが上がったことがその理由であろう。このように、個別の生徒との記述内容をみると同じ段階でも認識内容が深まり、変容がみられることが分かった。

次に、Ⅲ段階からⅣ段階に上がった生徒をみてみると、「昔から今の世代まで受け継がれてきた大切にしなければならない伝統的な文化」、「昔から受け継がれてきて、私たちも未来に伝えていかなければならない」といった記述にみられるように、伝統文化は受け継がれたものであるという一般化とともに、大切に引き継ぐべきものという価値観を述べているものがほとんどである。こうしたⅢ段階からⅣ段階に上がった生徒によくみられる特徴は、DVD教材で印象を持った点に多くの具体事例を挙げる生徒が多い。そうした具体事例に高い興味・関心を示すことが、体験したいとか、引き継がなければならないという意欲につながっているようである。また、DVD教材における中高生へのインタビューに共感を示している生徒もおり、そうした共感や、昔と今の広島と比較から受け継がれているものの再認識が、それを今後もつなげようという意識

を生んでいることも伺える。このように、Ⅲ段階からⅣ段階に上がった生徒はDVD教材の内容を真摯に受け止め、そこから発せられるメッセージに応え、積極的な対応をしていることが伺える。

さらに、プリテストでは伝統文化の認識を示すことができず、無回答であった生徒の中には、Ⅲ段階、Ⅳ段階に上がった生徒がいた。どちらの段階に上がった生徒を見ても、伝統文化の具体事例に高い興味を示している。Ⅲ段階に上がった生徒は、具体事例をDVD教材で知り、伝統文化をそうした事例の集合と捉えている。Ⅳ段階に上がった生徒は、具体事例が多くあり、それを守らなくてはならないと捉えている。

ウ 質的分析結果の考察

以上から、DVD教材で示した具体事例が生徒の質的な変容に大きな役割を果たしていることが分かった。特に生徒が高い関心を示した具体事例は神楽と茶道であり、伝統文化は具体的な事柄であるという生徒のもともも持っていた認識に、DVD教材がその事例として神楽と茶道の様子を提示するとともに、それに参加した生徒たちのインタビューを盛り込んだことで視覚・聴覚に強く訴え、この相乗効果により質的にも大きく変容したことが明らかとなった。

4 本年度の研究の総括

以上に示した数量的分析、質的分析の結果とその考察から、本年度の研究の総括を行うために、まずは、当初本DVD教材を活用した学習の成果として期待したA～Fの事柄について検討しよう。ついでこれらの事柄について、どのように判断できるかを論究することにしよう。

「A 生徒に、郷土の伝統文化に関する知識・理解を増進させることができる」は十分に成果が上げることができる。「C 生徒に郷土の伝統文化への興味・関心を与え、伝統文化を自ら調べたり考えたりすることができるようになる」「D 生徒が、郷土の伝統文化に取り組もうとする態度を形成することができる」「E 生徒が、我が国の伝統文化を他国や他地域の伝統文化と比較し、その意義を考えることができる」は十分とはいえないが、それなりの成果を上げることができる。「B 生徒に、郷土の伝統文化の歴史的意義と現代的意義を考えさせることができる」「F 生徒が、郷土、我が国、世界の歴史に興味・関心を広げることができる」という2つの事柄は、今回の研究授業では、説明することができなかった。

このような学習成果に関する結果から、次の3点を本研究授業の研究総括としてまとめることができる。

第1に、DVD教材の活用は、授業そのものに対する

